

## 第8章 活用の方向性と方法

### 第1節 活用の方向性

丸亀城跡の本質的価値を来訪者が肌で感じることができるよう、城内をくまなく移動でき、直に触れ、間近で見学することができる、歴史を学べる史跡としての活用を目指す。

既に、丸亀城跡は史跡としてだけでなく、都市公園として市民の憩いの場、レクリエーションの場として広く市民に親しまれている。

さらに平成30年度（2018年度）、坤櫓跡周辺石垣の崩落があったことで、市民の間では改めて丸亀城跡が心のよりどころであったことが認識されたところである。丸亀市のシンボルであり、市民の誇りとして丸亀城跡の理解をさらに深められるような活用を目指す。

### 第2節 方法

#### 第1項 歴史遺産としての活用

天守及び大手一の門、二の門が現存し、東西南北の四方を高石垣で囲む丸亀城跡については、中心市街地という立地を活かし、地域に開かれた歴史を体験できる場として活用する。

- ・発掘調査や古文書、古絵図などの調査・研究を継続して実施し、その成果をパンフレット、ホームページで公開し、解説板を充実させるなど成果を広く発信し、史跡の本質的価値を生かした活用につなげる。
- ・丸亀城跡の文化財性・歴史性を最初に体感できるエントランス空間である大手一の門、二の門、天守が一望できる日本でも有数の高い視覚性を持つ城跡であるという点を積極的に発信する。
- ・ガイダンス機能を果たしている資料館では丸亀城跡や丸亀藩主ゆかりの文化財等を活用し、価値の多様性を活かして展示を行う。
- ・ボランティアガイドに対して、学芸員による定期的な研修を行い、観光客等に丸亀城跡を案内する人材の育成に努める。
- ・丸亀城跡は生駒氏の時代に支城として築かれたが、同じく生駒氏が入城した高松城跡、引田城跡が所在する自治体等と連携し、香川県内の歴史を学べる機会の多様化を図る。
- ・多度津藩は丸亀藩の支藩として成立した歴史的経緯があることから、多度津町と連携し、京極家の歴史について学ぶ機会の増大を図る。
- ・崩落した三の丸坤櫓跡、南西帯曲輪石垣復旧事業では情報発信に努め、工事中ならではの高石垣の迫力や高度な構築技術をアピールする。石垣復旧現場前に開館した石垣復旧PR館においては、丸亀城跡に関する歴史資料や石垣復旧に関連する資料の展示、復旧現場の展望所の設置、復旧現場から出現した埋没石垣の展示等を行っているが、引き続き石垣復旧事業の情報発信並びに史跡のガイダンス機能の強化を図る。



写真 87 ボランティアガイドによる解説

## 第2項 学校教育における活用

丸亀城跡の持つ本質的価値の理解を深めるため、現地整備に加えて映像や動画などを用いながら幅広い年齢層が理解できるように努め、学校教育の場として広く活用され、愛される史跡を目指す。郷土の歴史を学ぶことは郷土の誇りを醸成し、これからの郷土を担う人材育成にも繋がることであるので、教育現場に働きかけ、学習機会のさらなる増大を図る。

- ・市内の小学校3・4年生の社会科副読本「あすへのびる丸亀」での丸亀城跡の学習を継続的に実施するとともに、近隣の小学校の生活科や理科における自然観察学習、城内資料館の展示物の見学、観光案内所内うち工房「竹」でのうちわづくり体験等を継続して行う。
- ・保育所・幼稚園・こども園の園外保育、小学校・中学校の遠足や授業での活用をきっかけとして文化財への興味を持てるよう、丸亀城跡を活用した学習機会の増大を教育現場に働きかける。
- ・丸亀市独自の取組である、「キッズウィーク」では、親子で丸亀城石垣復旧工事現場見学を行うなど、丸亀城跡の本質的価値に触れる機会を増やす。
- ・近年、市内・県内の小中学生が郷土の歴史を学ぶ「ふるさと学習」の場として、丸亀城跡を訪れる機会が増えていることから、学習機会のさらなる増大を図り、ふるさと丸亀を愛する子どもたちを育てる。

## 第3項 生涯学習（社会教育）における活用

本市が目指す生涯学習社会の実現に向けて、平成29年度（2017年度）から5年間を対象期間とした「第3次丸亀市生涯学習推進計画」に基づき、市民の生涯学習活動の場として活用する。

関係部署が連携し、本市のシンボルである丸亀城跡を学ぶ機会を増やすことで本市の歴史に関心を持つ者同士の交流を促進し、この中で得られた成果を地域に還元する取組を通して地域コミュニティにおいて仲間づくりや学びへの意欲の活性化へと繋げていく。

- ・市民が郷土の歴史を学ぶ「丸亀市民学級」のほか、歴史的背景により親善都市となった石川県七尾市、北海道京極町の子どもたちと本市の子どもたちとの交流事業においても、丸亀城跡の見学などを継続的に実施する。
- ・丸亀城跡は、子ども会を卒業した中高生のジュニアリーダークラブの活動場所や、毎年5月に開催される「丸亀お城まつり」における社会教育団体の青年団体・婦人団体等の活動場所として継続して活用する。
- ・「丸亀市民学級」について丸亀城をテーマとした複数回講座の開催を目指し、郷土の歴史への興味を喚起する。石垣の崩落に伴う調査研究及び復旧事業の中で得られた新しい知見を活用し、学習機会を設ける。講座を通して丸亀城跡の本質的価値への理解を深めてもらう。
- ・出前講座の企画においては、丸亀城跡に関する映像や動画などを用いながら開催するとともに、講師等の充実を図る。

## 第4項 地域における活用

### ●地域資源として

都市公園「亀山公園」として活用することで、より多くの人に史跡を身近に感じ、親しんでもらうため、地域の芸術文化活動や各種のレクリエーション活動の場としての活用を図る。

- ・公園施設の維持・更新時には、遺構の適切な保存を図るとともに、関係部局との連携を深め、適切な植栽管理を行うことで、引き続き市民の憩いの場として活用する。内堀は、水位の変化、水質悪化と外来動物の繁殖などに注意しながら、現状どおりに活用する。
- ・丸亀城跡周辺のマップやパンフレット等を作成し、周辺観光資源との連携強化し、回遊性を高めるとともにSNSを活用した情報発信に努め、中心市街地の活性化を図る。

### ●観光資源として

丸亀城跡は、石垣をはじめとした遺構がよく残るだけでなく、全国現存12天守の一つである天守をはじめ、大手一の門、二の門が国の重要文化財として現存しており、丸亀市の貴重な観光資源としての活用を図る。

- ・丸亀城跡は本市観光の中心的企画として丸亀お城まつり・丸亀城おもてなしイベント・丸亀城キャッスルロードなどの各種イベント、丸亀城桜まつり・丸亀城菊花展・時の記念日・八朔だんご馬などの季節の風物詩イベントのほか、天守や石垣のライトアップ等、多彩なイベントをさらに充実させることで、より集客を高める。
- ・各種音楽ライブ・浄瑠璃・サーカス・プロジェクションマッピングなど、ユニークベニューとしての活用を図る。また、観光庁が推奨する「城泊」については観光部局と実現の可能性について協議を進める。
- ・城内の観光案内所・おみやげショップ・うちわ工房「竹」などの既存施設を活用するとともに、丸亀城ボランティアガイドやお笑い人力車による来訪者のもてなしも充実を図る。
- ・市民に対しては、日本百名城スタンプの設置や「御城印」の限定販売等により付加価値を高めているが、丸亀城跡をさらに身近に感じてもらえるように新たなグッズの開発を行う。
- ・京極家大名庭園「中津万象園」など、周辺観光資源との連携を強化し回遊性を高めるとともに情報発信に努める。
- ・既存アプリ「よみがえる丸亀城」のコンテンツの充実や先端技術を活用し、既存の設備等との連携を図るなど、丸亀城跡の本質的価値を効果的かつ適切に伝える仕組みづくりに取り組む。
- ・高い視覚性を持つ丸亀城跡を様々な角度から見ることのできるビューポイントを設定し、案内板を設置する。特に令和3年(2021)に完成する丸亀市役所新庁舎最上階からの展望スポットについては情報発信に努め、大きくアピールする。
- ・インバウンドに備え、多言語化や天守入場料のキャッシュレス化を図る。



写真 88

お城まつりの大名行列

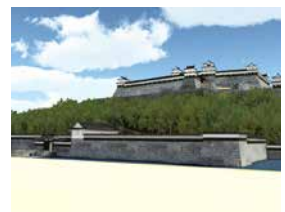


写真 89

アプリ「よみがえる丸亀城」の画面